



え/ひじ みえ

み教えの言葉を学ぶ⑨

称名報恩

—ご恩のわかる人に育てられる—

浄土真宗のみ教えを伝えるためのキーワード、「信心正因」「称名報恩」「二種深信」について解説します。筆者は、本願寺派総合研究所の満井秀城副所長です。今号は「称名報恩」です。

「信心が正因なら「称名」は？

念仏申す中から「恩のわかる人」に

前回は、「信心正因」の意義と意味を見てまいりました。第十八願には、阿彌陀さまのお浄土に往生するためには、「至心信樂欲生」の三心(信心)と、「乃至十念」の称名念仏以外には、何も誓われていません。「信心」と「念仏」以外には、何の用事も無いのが、阿彌陀さまのお救いです。

この内「信心」が正因なら、「称名念仏」は、どうなるのでしょうか。どうある内、片方が「正因」なら、もう片方は、どうあるかは「正因ではない(非正因)」といふことですね。ここでは「理解」ではなく「理解」だと思えます。しかしそれなら、「正因でもないものが、なぜ本願に誓われているのか」という問題が出てきます。それを私たちが浄土真宗では、「称名報恩」と言っています。

んか。阿彌陀さまは「救ってあげるのだから、ご恩返しなさる」という仏さまなのだろうか。電車でもバスでもお年寄りに席を譲ってあげた時、その人が「礼も言わずにデーンと座った、カチンときます。別に、お礼を言ってもらいたくて席を譲ったのではないのだから、いい年をして、礼も言えないのか」と憤慨するのは、私たちが凡人というものです。阿彌陀さまは、そんな凡夫の「見聞」は異なります。

私の次男がまだ小学生だった頃、勉強嫌いで、算数でも国語でも、少し宿題に取りかかるとすぐ集中力が切れ、鉛筆を転がし始めます。そんな彼が、昆虫や恐竜の図鑑になると、何時間も飽きずに見ています。当時「ジュラシック・パーク」という恐竜映画がはやりました。テレビでも放映されましたが、彼はそのビデオが欲しいと言っています。

欲しいからといって、すぐ与えたのでは良い癖になりませんから、いったん却下します。そして誕生日か何かを買ってあげると、まさしく飛び上がらんばかりに喜びます。急いで開封してビデオデッキに入れようとする時、私は黙っておられます。

「ちょっと待て。ありがとうと言いなさい」

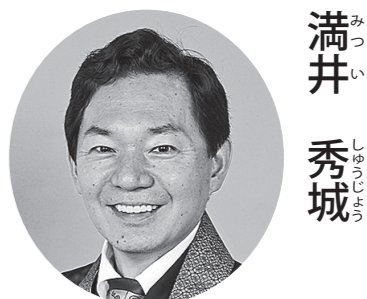
ずっと前から欲しかったことは知っていますし、我慢もさせてきました。子どもの喜ぶ姿を見たら、親としてはそれで充分なのですが、「ありがとうと言いなさい」と言わすおねないのは、「ありがとう」という言葉の「育ち」が足りないか、と思うからです。

阿彌陀さまが「ご恩報謝」の念仏を誓われたのは、念仏申す中から、ご恩のわかる人に育ってほしいと願われたからに他なりません。私たちの欲望には際限がなく、「あれが欲しい」「これが足りない」と、不平・不満の毎日です。それが、ご恩のわかる人に育てられることで、「ありがたい」「もったいない」という感謝の毎日に変わるので。

欲は苦の本

苦しみの原因は自分の内に

浄土真宗のみ教えを伝えた七高僧の第一祖として宗祖親鸞聖人が尊称された龍樹菩薩は、「八宗の祖」と言われるように、大乘仏教の流れを汲む中で龍樹菩薩を尊敬しない人はいません。しかし、伝記によると、若い頃はかなりヤンチャだったようで、悪友たちとともに悪事に耽っていたそうです。自分の姿が見えない「隠



本願寺派総合研究所副所長

身の術」を会得し、やりたい放題で、果ては王さまの宮殿にまで忍び込みます。

ところがある時、悪事が露見し、龍樹菩薩を除く悪友全員が斬り殺されてしまいました。その時、龍樹菩薩は大発見をするのです。それが「欲は苦の本」ということでした。

私たちは自分の苦しみの原因を、常に外に見ようとしています。隣の家族が困らせる。政治が悪い、教育が悪い、社会が悪い。夏目漱石の有名な「草枕」の冒頭の一節を存じでしょうか。「暫に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。とかくに人の世は住みにくい」で始まり、「住みにくさが高くと安い所へ引き越したくなる」と続きます。しかしさらには、「ここへ越しても住みにくい」と続きます。隣の家族が追いかけてきたのではありません。「自分にとって、都合がいいか、悪いか」という物差しで見ている限り、自分に都合の悪い人は必ず出てきます。つまり、苦しみの原因は、外にあるのではなく、自らの内なる欲にあるという大発見なのです。

原因がわかれば治療法を探そうとできます。どんな難病でも、原因がわかれば治療や予防を考えることができます。いま、苦の原因が欲にあることがわかりました。すると、解決法は、「欲をなくせば苦はなくなる」という方法があります。理屈は単純明快ですが、いざ実行すると大変です。この解決法が聖道門で、まさに難行道と言われる所以です。私たち牛身の人間は、暑い時は暑く、寒い時は寒く、痛い時は痛く、眠い時は眠いのです。理屈は簡単でも「わかっちゃいるけどやめられない」のがお互いなんです。そこで龍樹菩薩は、他に方法がないかと探して「欲は苦の本」と「欲は欲のまま、苦に繋がる道はないか」という問いを投げかけました。

念仏申す身になっても、欲はなくなりません。しかし、欲は欲のまま、迷いの果を引かず、煩惱の身のままで、必ず苦の道を開いて仏と成ることが定まっている仲間となる正定聚不退の位に定まるのです。昔から、「切り花は実を結ばない」と言い習わしてきました。煩惱は花盛りですが、根を切つてあるので、迷いの果を引きません。そして、ご恩のわかる人に育てられることによって、不平・不満の毎日が、感謝の日暮らへと転換されるのです。

(今回は「二種深信」 6月10日号の予定)

浄土真宗を深く知るための解説書の決定版——人気の聖典セミナーシリーズ< A5判・上製本 >

聖典セミナーシリーズ

浄土三部経や宗祖親鸞聖人・歴代宗主等が記された書物を、現代語訳、講義等を付して書かれた、初学者から専門家まで必読の解説書。

唯信鈔文意

シリーズ最新刊 普賢見壽著
法然聖人の教えを伝える聖賢法印の「唯信鈔」。そこで引用される「浄土三部経」などの経釈の要文を親鸞聖人が註釈し、念仏の教えをあきらかにした「唯信鈔文意」。本文・現代語訳・講義の構成で詳しく解説。

▼本体 2500円＋税

- 浄土三部経Ⅰ 無量寿経 稲城 選患著 ▼本体 2400円＋税
- 浄土三部経Ⅱ 観無量寿経 梯實圓著 ▼本体 3800円＋税
- 浄土三部経Ⅲ 阿彌陀經 瓜生津 隆真著 ▼本体 2200円＋税
- 教行信証「教行の巻」 梯實圓著 ▼本体 4300円＋税
- 教行信証「信の巻」 梯實圓著 ▼本体 4300円＋税

尊号真像銘文

- 白川 晴頭著 ▼本体 3400円＋税
- 三帖和讃Ⅰ 浄土和讃 黒田 覚忍著 ▼本体 3800円＋税
- 三帖和讃Ⅱ 高僧和讃 北塔 光昇著 ▼本体 3600円＋税
- 三帖和讃Ⅲ 正像末和讃 浅井 成海著 ▼本体 3800円＋税
- 親鸞聖人御消息 靈山 勝海著 ▼本体 3200円＋税
- 歎異抄 梯實圓著 ▼本体 3800円＋税
- 親鸞聖人絵伝 平松 令三著 ▼本体 3200円＋税
- 口伝鈔 梯實圓著 ▼本体 3800円＋税
- 御文章 宇野 行信著 ▼本体 3000円＋税
- 蓮如上人御一代記聞書 藤澤 量正著 ▼本体 3400円＋税
- 一念多念文意 内藤 知康著 ▼本体 2200円＋税
- 選択本願念仏集 浅井 成海著 ▼本体 2800円＋税

サイズは全て新書判(172×105^{mm})

新書シリーズ

No. 014 私の歩んだ仏の道 浅田 正博(恵真)著 ▼2600円本体 800円＋税
自力の世界にあらがれ、禅修行の果てにたどりついた他力の教え。お念仏のよさ、さらにはそこに至る自らの歩みと思いを、本願寺派勧学が瑞々しく語る。

シリーズ最新刊

No. 001 やさしい真宗講座 靈山 勝海著 ▼2560円本体 700円＋税
—み教えに生きる—

No. 002 正信偈入門 三木 照國著 ▼1360円本体 500円＋税
—浄土真宗を基礎から学ぶ—

No. 003 蓮如上人のことば 満井 秀城著 ▼1760円本体 700円＋税
「蓮如上人御一代記聞書」を読む

No. 004 大悲心を学ぶ 清岡 隆文著 ▼1720円本体 700円＋税

No. 005 ひらがな真宗 森田 真円著 ▼1680円本体 700円＋税

No. 006 平等への視座 梯實圓・上山 大峻著 ▼1520円本体 700円＋税
—対談歴史的課題と教団—

No. 007 教行信証のことば 藤澤 量正著 ▼1360円本体 600円＋税
—やさしい法話—

No. 008 医療文化と仏教文化 田畑 正久編 ▼1280円本体 600円＋税

No. 009 歎異抄のことば 玉木 興慈著 ▼2120円本体 700円＋税

No. 010 妙好人のことば 白川 晴頭著 ▼1520円本体 700円＋税
—信心とその利益—

No. 011 ことば 藤澤 量正著 ▼1760円本体 700円＋税
—仏教語のこころ—

No. 012 生死と医療 佐々木 恵雲著 ▼2320円本体 700円＋税

No. 013 孤独が癒されるとき 藤澤 量正著 ▼1920円本体 700円＋税